

『オリジナル山野草カレンダー』

6月号をお届けします。

今月の花・木

ゼンテイカ（禅庭花） 一般名 ニッコウキスゲ（日光黄菅）

- ◎ ススキノキ科ワスレグサ属の多年草。日本では本州では高原に普通に見られる北海道や東北地方では海岸近くでも見られる。
 - 花言葉 「日々あらたに」 「心安らぐ人」
- ◎ 花期は5月から8月頃。草原・湿原を代表する花で、群生すると山吹色の絨毯のように美しい。栃木県日光地方の固有種ではなく、日本全国に分布している。
- ◎ その近縁種も多く、和名・学名ともに混乱が見られる（エゾカンゾウ、エゾキスゲ、ユウスゲなど…多種）



山形市山寺 根本中堂の庇（6月撮影）

*この内陣には約千二百前に創建したときの、有名な不滅の法灯が燈っている

<今月の一言>

『御茶ノ水駅周辺』

350年も前に起こった仙台藩伊達騒動のことを想像することも、ましてや山本周五郎「樅の木は残った」を再読することを今は考えていない、しかし乍らコロナ禍のために中断した仙台藩士 真山刑部元輔のその後を追跡しようと気が済まないのです。

コロナが流行る3年前には上京し今も残る神田川（仙台堀）に微かには御茶ノ水駅、順天堂大学舎、水道橋（東京ドーム）、飯田橋等決して清冽と言い難い流れではあるが名残りはあった。

江戸時代初期の熱気はいまだにある